

# ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2019/10 ▶ 2020/03

Vol.  
09



# 家族をめぐる新境地の作品2本を 柴幸男が愛知凱旋公演

劇団「ままごと」主宰の柴幸男が、久々に故郷・愛知で公演を行います。しかも昨年発表した新たな代表作と、これから創造する最新作の2本を発表。新たな手応えを得た「ツアー」ことや新作の構想を柴さんに尋ねました。

## 現実から影響された 新たな劇世界

ままごこの作品「ツアー」は2018年、柴幸男の作・演出で初演。男女3人のキャストが登場する劇です。比較的にコンパクトな同作は横浜を皮切りに静岡、新潟、小豆島、沖縄でも公演されました。「ツアー」は題名どおり旅するための作品だったようです。

柴「劇団の公演規模が大きくなつてきて、もう少し気軽に、日帰り旅行のような感覚の作品が創れないかと考え始めていたんですよ。ちょうど新しいメンバーが入団したタイミングでもあり、外部と組まず、自分たちだけで作品を発表しよう。それは〈旅〉の話にしたいとも考えました。結果45分ほどの中編「ツアー」が生まれたんです」

前向きな状況や想いから出発した「ツアー」ですが、そこには〈死〉の影も漂っています。

柴「プライベートで子どもが産まれた経験は大きかったと思います。育児をする

中で、事故や病気といったものを意識するようになり、そこから死の実感も増して……。主人公がどうして旅に出るのか、その動機を考えた時、もしも子どもに何かあったら速くに行きたくなくなるかなと。不幸があっても生きていく人はいって、たまたま自分は幸運なだけかもしれない。そこで、子どもの死というものを想像してみたいんです」

ささやかでも温かな〈生〉の輝きを描くのが印象的な柴さんには、ちよつと意外な言葉。ただ、何気ない日々のいとおしさを反対側から見つめたと言えるかもしれません。何より劇中のキャラクターや設定がユニークで〈死〉の怖さを忘れてしまいうさうです。

柴「登場するのは主人公の女性、彼女が出会う異国の音楽家、この役名はイヌと言います。それにカーナビ役ですね。イヌはヒッチハイクで出会って、そこから主人公と行動を共にし、彼女を送り届ける。去年、台湾で創作する機会があったんですけど、向こうで親切にしていた旅の記憶が影響しています。ま

た、台湾では日本とほぼ同じ漢字を使用していることにヒントを得て、イヌは漢字だけでしゃべる設定にしたんですよ。正確には、ねつ造した言語（笑）。概ね言っていることはわかるけど、細かいところまでは伝わらないので、ブロークン・イングリッシュみたいな感じでしようか」



ままごと「ツアー」(2018年、横浜)撮影:石倉来輝

## ゆるやかに交わり合う 演劇の旅、人生の旅

長久手が初演の地となる最新作は、取材時まだタイトル未定!?そこで構想だけでも聞いちゃいました。

柴「『ツアー』ができた時から45分の作品は感覚的に良いなと感じていたので、続編ではないけど、連作っぽく同じ形態のものを創ろうと考えていたんです。旅になるか、対極の設定になるかわかりませんが、共通する世界観の作品にしたいなと。また、新作は男性視点になると思います。いずれにしても、演劇を通じて人生を俯瞰する体験になるはず。それと、会場が森のホールなので空間の雰囲気に合わせていなども、素敵な空間だから楽しみですよ」

文化の家で初めて公演した頃の柴さんは初々しい一人の劇作家・演出家でしたが、やがて劇団を立ち上げ、大きな戯曲賞に輝き、気づけば父に……。この間、家族観や集団論に変化があったことも語ってくれました。

柴「現在は、劇団も家族的に捉えていますね。その上で、本当の家族も同様ですけど、今までの形式のままでは難しい時代になつてきたと感じていて……。新しいカタチが必要だなと。最近は〈個人と家族〉〈孤独と共存〉についてよく考えます。新作は、自分のいる場所を抜け出して孤独になり、そこから戻ってきて、今までの家族やコミュニティに何かをもたらす作品になるかもしれません。それは〈新しい家族〉の提案になる気がします。この10年ほどで作品の感触も

変わってきました。良くも悪くも年齢を重ねてきたので(苦笑)、作品の色合い、風合いの変化を感じていただきたいですね。私的には家族が増え、子どもの視点に親の視点が加わってきたというのか、旧世代という内側から新世代という外側に回つたというのか、180度変わった感覚があるんですよ。以前より力が抜け、軽やかに、疲れないようにしながらも(笑)、活動を続けていくんだという想いはある。そういう意識は劇にも変化をもたらしています」

## 柴幸男と長久手市の因縁?!

文化の家の名物企画「劇王」は、東海エリア内外の劇作家が参戦してきた短編演劇のコンペティション。そして、2006年1月の「劇王IV」に彗星のごとく現れたのが柴さんでした。出品した「反復かつ連続」は、ある家族の朝の風景を一人の俳優が演じ分け、時間をループさせて見せる実験的作品。同作が絶賛され、柴さんは第4代劇王となりました。さらに2013年「劇王X～天下統一大会～」でも競り勝ち、最高位「劇天」の称号を得ています。



ままごと「ツアー」(2018年、横浜)撮影:石倉来輝

ままごと「ツアー」+「タワー(仮)」  
2020年1月25日(土) 17:00「ツアー」/19:00「タワー(仮)」  
1月26日(日) 13:00「ツアー」/15:00「タワー(仮)」(開場は開演の20分前)  
※「タワー(仮)」終演後アフターイベントあり。  
作・演出:柴幸男  
出演:「ツアー」:大石将弘、小山薫子(以上ままごと)、秋草瑠衣子  
「タワー(仮)」:大石将弘、小山薫子、石倉来輝(以上ままごと)  
会場:森のホール  
料金:(前売・当日)フレンズ会員・一般2,000円、学生1,000円  
【ツアー&タワーセット券】(前売のみ)フレンズ会員・一般3,000円、学生1,500円  
【ままごと&劇王セット券】(前売のみ、限定50枚)  
フレンズ会員4,000円、一般5,000円、学生2,500円  
※全席自由 ※未就学児入場不可  
チケット発売日:フレンズ会員 11月2日(土) 一般 11月9日(土)



## 柴幸男 Shiba Yukio

愛知県一宮市出身。劇作家・演出家。劇団「ままごと」主宰。日本大学芸術学部在学中に「ドドミノ」で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2009年、ままごとを旗揚げすると、2010年には「わが星」で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。東京の劇場から北九州の船上まで、場所や形態を問わない演劇活動を行ってきた。2014年より『戯曲公開プロジェクト』を開始、劇団WEB(<http://www.mamagoto.org/>)にて過去の戯曲を無料公開中。



大石将弘 Masahiro Oishi



小山薫子 Kaoruko Oyama



石倉来輝 Riki Ishikura



秋草瑠衣子 Ruiko Akikusa

出演者



「うたのたね」は、「小さな人たちが初めて出会う舞台」を意識してつくられたものです。主に0〜30ヶ月の乳児とその保護者、妊婦の方を対象にしています。

赤ちゃんはこの世に生まれて、暮らしの中でさまざまな音に出会いながら成長します。現代の生活には機械音が溢れていますが、太古の昔は、風のざわめきや雨の音、小鳥のさえずり、お母さんのあやし言葉などが、きっと「音楽」のはじまりだったのでしょう。このステージには、にはそういった自然の四季の移ろいや生活の中で歌い継がれてきた「わらべうた」、伝承されてきた「あそび」が、ゆったりと穏やかな時間の中で表現されていきます。それらは人間の長い歴史の中でDNAの中に刻み込まれてきた「心地よさや美しさを感じる心(美意識)」に響く力をもつていて、乳児も自然に楽しむことができます。劇場が初めての子どもたちは、普段とは違うところに来るだけで緊張しますが、お母さんとリラックスできるスペースで遊びながら開演を待ちます。遊びながら気づいたら会場にいざなわれて舞台が始まっていた…というように、初めてのお子さんが緊張しないような配慮や工夫がされていますので、まだ小さいから劇場は無理と思わないで、素敵な時間をぜひ親子でお楽しみください。

#### うたのたね

2020年2月11日(火・祝) 時間未定  
舞踊室

チケット発売日:フレンズ会員2019年12月7日(土)、一般発売2019年12月14日(土)



米木康志 (B)



原大力 (Ds)



大口純一郎 (P)



大野えり (Vo)

JAZZ長久手では毎年、名だたるジャズプレイヤーを迎えて好評をいただいています。ライブハウスの雰囲気に近い風のホールで、気軽に本格的なジャズをお楽しみいただけます。今回はJAZZ長久手史上初めてのボーカリスト出演です。出演するのは日本が誇る女性ジャズ・ヴォーカリストの大野えりさん。実は名古屋出身です。その活動は多岐に渡り、ルパン三世のエンディングテーマをはじめとして、TVCMなどでも圧倒的な表現力と力強い歌声で多くの人を魅了しています。「大野えり+ピアノトリオ(仮)」と題し、共演に大口純一郎さん(ピアノ)、米木康志さん(ベース)、原大力さん(ドラム)を迎えます。抜群の歌唱力と温かなイントネーション、そして信頼の厚いベテランメンバートとの心地よい調和。バレンタインデーの夜、大切な人と特別な時間を過ごしてみませんか？

#### JAZZ長久手 ~やっぱりジャズはイイ!

2020年2月14日(金) 19:00開演  
風のホール

チケット発売日:フレンズ会員2019年12月7日(土)、一般2019年12月14日(土)

## “人生の夜明けの時”を生きる子どもたちへ

## ジャズ界のレジェンドによるスペシャルライブ。余韻は長く続く――



## クラシックギター界の巨匠、伝説の再演。

撮影:田井夙虫 提供:日本クラウン(株)

文化の家初となるギターのコンサートです。山下氏は、10代にして世界三大ギターコンクールを最年少で制覇し、世界の主要なギターコンクールも総なめにしました。あらゆるクラシックギターのレパートリーを網羅するだけでなく、数々のオーケストラ作品を自身でギターソロ用に編曲し、その並外れた超絶技巧と表現力で、たびたびギター界を驚愕させました。山下氏のために書かれた作品や初演した作品は数知れず、その存在は、孤高の天才として、現在も他の追従を許しません。今回のプログラムは、イタリアの作曲家マリオ・カステルヌオヴォ・テデスコ(1895-1968)による「ゴヤの絵による24のカプリチオス」全曲演奏です。この作品は、その名のとおりスペインの画家ゴヤの銅版画集「ロス・カプリチオス」の作品のうち24枚からインスピレーションを得て曲にしたものです。1989年に山下氏により全曲演奏としては世界初演され、「伝説の名演」とされてきましたが、国内では2018年5月に東京にて再演され話題になりました。2019年は、「ロス・カプリチオス」刊行220周年、「ゴヤの絵による24のカプリチオス」全曲演奏30周年を迎えます。スクリーンに映し出されるゴヤの絵とともに、演奏をお楽しみください。クラシック・ギターの次元を超越した最高峰の演奏をお聞き逃しなく!

#### 名演への招待シリーズ19

#### 山下和仁 ギター・リサイタル 「ゴヤの絵による24のカプリチオス全曲演奏会」

2019年11月16日(土) 15:00開演  
森のホール  
料金:一般3,500円、フレンズ会員(前売のみ)3,000円、学生2,000円  
※全席指定 ※未就学児入場不可



撮影:田井夙虫 提供:日本クラウン(株)

#### 山下和仁 Kazuhiro Yamashita

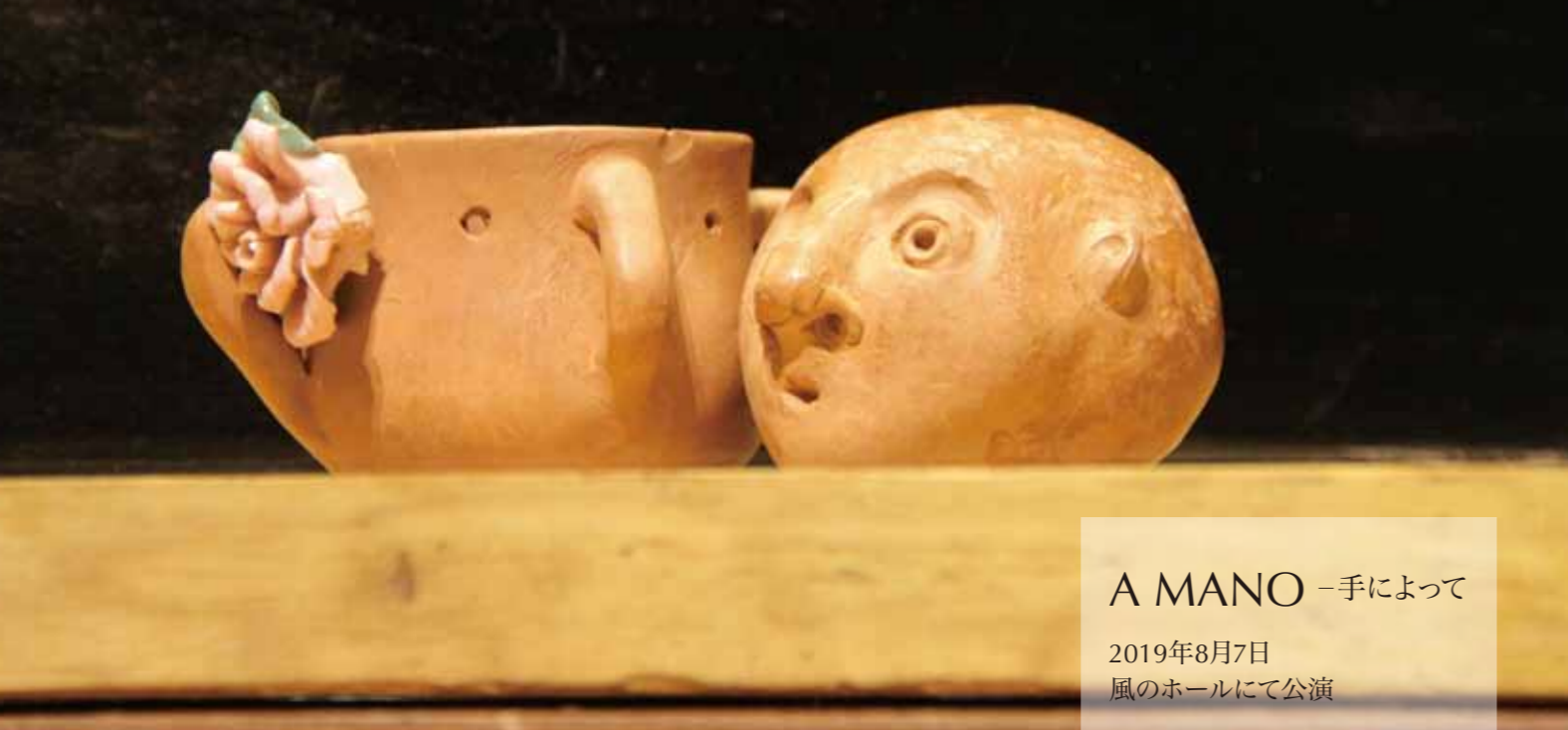
長崎市生まれ。15歳で東京国際ギターコンクール優勝。16歳史上最年少でラミレス、アレクサンドリア国際、パリの世界三大ギターコンクールで優勝した。これまでに85枚のアルバムを発表。自身の編曲による〈展覧会の絵〉〈火の鳥〉〈シェエラザード〉〈新世界より〉、そしてJ.S.バッハのアルバムでは前人未踏の域を示し、ソルなどギター本来のレパートリーも誉れ高い。スラットキン指揮ロンドン・フィル、バイヤール室内管、スペイン放送響、N響等のオーケストラや、ジェームズ・ゴールウェイ、ヴォルフガング・シュルツ、東京クワルテット、ゲイリー・カー等と共演。ウィーン・ムジークフェライン、ニューヨーク・リンカーンセンター、シカゴ・オーケストラホール、サンクトペテルブルク・フィルハーモニア、テアトロ・レヅジョ、ペルー・サクサイワマン遺跡等の他、世界各地の国際ギター・フェスティバルにも多数出演。自身の子供たちと「山下和仁ファミリーカルテット・クインテット」を結成し、長女(紅弓)、次女(愛陽)とギター・デュオでも活動する。国内外の現代作曲家から60を超える新作を委嘱される。CD《黎明期の日本ギター曲集》で平成11年度文化庁芸術祭大賞を受賞。

#### 関連レクチャー

#### フランシスコ・デ・ゴヤ「ロス・カプリチオス」解説

国立西洋美術館の元学芸員で、愛知県立芸術大学美術学部准教授高梨光正氏による作品のレクチャーを実施します。作品について、作者であるゴヤについて、詳しくお話しします。コンサートが、より楽しみになること間違いなし!

日時 2019年10月26日(土)14:00開始(15分前受付開始)  
会場 光のホール  
講師 高梨光正(愛知県立芸術大学美術学部准教授)  
料金 500円(当日支払い)  
申込方法 文化の家受付または電話にて受付。



## A MANO -手によって

2019年8月7日  
風のホールにて公演



井田亜彩実

## コンテンポラリーダンス公演 ARTopia!

2019年8月2日・8月3日  
風のホールにて公演

species (振付 / 井田亜彩実)

## REPORT

- イベントレポート -

### 2 A MANO 鑑賞レポート (仮)

「手を使って…」【A MANO】。「まさか」にただそれだけの世界が文化の家風のホールで繰り広げられました。ホールに入ると目に飛び込んできたのは小さな舞台セット。いつもは人が動くだけのスペースが広げられるなか、中央にポツンとある台と額縁のようなもの。始まったのは粘土と手を使った劇。はじめは大きな粘土がさまざまな変化し、かわいらしくもお茶目なしぐさ、愛のしぐさなど、次々に変化していきます。時折、客席からも「おお！」という歓声や子どもたちの笑い声が聞こえてきました。

本編は「リサイクルショップ」とカタカナで書かれた看板が吊り下げられるところから始まります(個人的に日本語で書いてあったところが「いいね！」でした)。粘土で作られた顔と出演している Julian (フリアン) と Izakun (イサスクン) の「手」で表されるのは、ショウケースに並べられている「置物」(だと思ふ)。周りのものがどんどん売られていくのを見守ったり(見守っているわけではなかったが)、自分が売れるようにポーズを変えてみたり、配置を変えてみたり…「お店の人が」ではなく、置物本人が努力するさまがコミカルに描かれました。登場人物の奇妙な姿は、人形かと思えば動物のような4足歩行になったり、はたまた、頭を抱えて考えてみたり、怒ってショウケースを蹴つてみたり、ほかの置物と愛を語り合ったり、別れたり…(※流れ No.「La Vie en rose」がまた



(舞踊系創造スタッフ 豊永洵子)

絶妙な空気感を生み出していました(…)。ここで読者の皆様に思い出していただきたいのが、いま、私が記述したストーリーは、もちろん会話劇として表されたものではなく、すべて言葉がないまま展開されていったものなのです!! だから、もしかしたら私とは違うストーリーの解釈をされた方がいらつしやるかもしれません。この公演において、一番面白いと感じるところはまさにココ!! みんな同じものを見ていたようで、実は隣の人は違うものを見ているかもしれない! というところだと思います。

今回、演者のお二人はスペインからやってきました。お二人が話す言葉はきつとスペイン語や英語など、決して日本語ではないはずですが、しかしながら「手」一つで語られる「物語」は、日本人の子どもから大人まですべての人をその小さな箱にきぎ付けにし、そこ

で起こった出来事に観客は心を動かされました。この「身体表現」改め「手指表現」とでも言いましょうか(もはや「手」のレベルの動きではありませんでした…)、それらは体全体を使つて表現をしている演劇やダンスを凌駕するほどのものでした。私の専門であるダンスでも、「手」の動きは非常に重要です。しかしながら A MANO で起きた「手」の動きには、もう「あつぱれ」としか言いようがありません!!

上演後には、実際に使っていた粘土が観客にシェア(私もいただきました!)。されるというサプライズ! もらっていった子どもたちはきつと、お家で真似をしたのではないかな…と思えばかりです。

## REPORT

- イベントレポート -

### 1 ヒトとヒトによって産み出されるアートの祭典

文化の家の自動ドアを抜けると、微かにどこから音楽と人々の声が聞こえてきました。この感じ、まさに祭りへ向かう道中のようだ、と思いましたが風のホールホワイエに向かいながら風を構える景色は、屋台のように店を構えるクラフトショップに、音楽とともに気ままに踊るダンサーとそれを囲むギャラリ、そしてカリーのいい匂い漂うロビー…。普段の風のホールの雰囲気とはずいぶん違い、気分と期待が高まりました。

公演の構成は、archaicbody(杉山絵理さん、服部哲郎さん)の男女ダンサーのユニット、ピアニストの堀内悠馬さんによるパフォーマンス、創造スタッフの藤島えり子さんがメンバーのハラベッコ(おにぎりばくばく丸)のハラス、そしてサングラス姿でした。サングラスに覆われ、はつきりと顔がわからないはずなのに、ころころと表情・身体の動きを変えながらのアナウンスはとても魅力的で、早速その世界観に惹き込まれました。

公演の構成は、archaicbody(杉山絵理さん、服部哲郎さん)の男女ダンサーのユニット、ピアニストの堀内悠馬さんによるパフォーマンス、創造スタッフの藤島えり子さんがメンバーのハラベッコ(おにぎりばくばく丸)のハラス、そしてサングラス姿でした。サングラスに覆われ、はつきりと顔がわからないはずなのに、ころころと表情・身体の動きを変えながらのアナウンスはとても魅力的で、早速その世界観に惹き込まれました。

公演の構成は、archaicbody(杉山絵理さん、服部哲郎さん)の男女ダンサーのユニット、ピアニストの堀内悠馬さんによるパフォーマンス、創造スタッフの藤島えり子さんがメンバーのハラベッコ(おにぎりばくばく丸)のハラス、そしてサングラス姿でした。サングラスに覆われ、はつきりと顔がわからないはずなのに、ころころと表情・身体の動きを変えながらのアナウンスはとても魅力的で、早速その世界観に惹き込まれました。

公演の構成は、archaicbody(杉山絵理さん、服部哲郎さん)の男女ダンサーのユニット、ピアニストの堀内悠馬さんによるパフォーマンス、創造スタッフの藤島えり子さんがメンバーのハラベッコ(おにぎりばくばく丸)のハラス、そしてサングラス姿でした。サングラスに覆われ、はつきりと顔がわからないはずなのに、ころころと表情・身体の動きを変えながらのアナウンスはとても魅力的で、早速その世界観に惹き込まれました。

公演の構成は、archaicbody(杉山絵理さん、服部哲郎さん)の男女ダンサーのユニット、ピアニストの堀内悠馬さんによるパフォーマンス、創造スタッフの藤島えり子さんがメンバーのハラベッコ(おにぎりばくばく丸)のハラス、そしてサングラス姿でした。サングラスに覆われ、はつきりと顔がわからないはずなのに、ころころと表情・身体の動きを変えながらのアナウンスはとても魅力的で、早速その世界観に惹き込まれました。



(音楽系創造スタッフ 細川杏子)

れも利他的で、一緒に作品を創つていくような高揚感があり、少しでもそれを残したいと常に携帯を握りしめ撮影しながら鑑賞していました。

アート作品もデジタル化の波が押し寄せており、日常的な手軽さを重視する世界になりつつある今、私個人としてもパフォーマー側だけがライブにこだわっているのでは…と、時に不安になることがあります。

来てくださった方とともに創り上げられるアートの祭典「ARTopia」によって、パフォーマンスする側としても、いちギャラリとして訪れてより強く、「それでもやっぱり生のライブ感がいい」と改めて認識することができた公演でした。

# 創造スタッフ紹介

Q. 上半期の振り返りと下半期への意気込み

## MUSIC STAFF



弓立翔哉 (打楽器)

4月より新たに創造スタッフのメンバーになり、約半年が経過しました！まだまだ手探り状態ですが、他のスタッフの方々のお力をお借りして、前半はジャズコンサートや音楽デリバリー、お披露目コンサートを終えることができました。後半からは音楽デリバリー、クリスマスコンサートなどのイベントが盛りだくさんなので、しっかりとこなしつつ、創造スタッフ企画など精力的に活動していきたいと考えております！

## MUSIC STAFF



了徳寺佳祐 (作曲)

毎日が新しいことの連続でした。ついに教育機関を卒業し、働きながらの創造スタッフ業務に様々な違いを感じました。ですが窮地に立たされるからこそ湧き上がる表現意欲と創作意欲。昨年よりもずっとパワフルに活動した上半期でした。創造の世界に慣れや休息はないのでしょう。新しいことに挑戦する自分は今もこれからは慣れないことにぶつかり続けていくと思います。怒涛の残り半期を超えて了徳寺にしかできない表現を追い求めていこうと思います。

## MUSIC STAFF



細川杏子 (フルート)

上半期は主に今年よりスタッフになった弓立くんとのコラボレーションをどんなふうにしていくか試行錯誤するのがメインで、無事今年の音楽系メンバーの形が出来てきたような気がします！自分の新しいジャンルへの挑戦も出来て、ジャズの要素のある演奏、七夕企画での演劇・ダンスとのパフォーマンス…とても刺激的でした。下半期はなんといっても芸術の秋、たくさんの演奏会がありますが、特に今年のクリスマスコンサートは面白くなりそうです。

## PROMOTION STAFF



藤島えり子 (情報/演劇)

上半期は対話型ギャラリートークに、七夕企画、えんげきりびんぐ第2回が主だった活動でした。同時進行で2本の演劇作品への出演もしていて、忙しくも充実した半年でした。(このハレとケが発行されるころにはARTopia! と了徳寺くんと企画も終わっていますね…) 下半期はクリスマスコンサートに、劇王！えんげきりびんぐ第3回もやります！創造スタッフラストイヤーなので精一杯悔いなく、あくまで楽しく！活動してまいります！

## ART STAFF



橋寛憲 (造形)

上半期は念願の大人向けワークショップ「オトナ針金」を開催できました。子ども・親子向けのワークショップ、コロコロオブジェもできました。ワークショップはやっばり楽しいです。下半期はオトナ針金の第二弾を開催したいと思います。今回は音符や記号を作りましたが、次は少し難度をあげて、魚や鳥を作りたいと思います。乞うご期待。

## DANCE STAFF



豊永 洵子 (コンテンポラリーダンス)

上半期は、七夕企画第2弾として「文学パフォーマンス」を行いました。創造スタッフ女子メンバー3名でのクリエイションは、各々の特性も見えたらうえで融合する部分を見出すような時間を過ごしました。そして、上半期はなんといっても「ARTopia」でしょう!!! 後半戦も文化の家にダンスをまき散らす活動を継続していきますので、ぜひ、気軽に観にいらしてくださいね!

## ART STAFF



小林大地 (造形)

7月のベルギーナイト、9月のB'Rockオーケストラの公演と、上半期はバロックのコンサートが2件あり、得意なバロックの知識(趣味程度)を活かした制作、ワークショップをすることができました。下半期の私の目標は、当館の人気イベント、創造スタッフ冬のコンサートをどれだけ今までと違う感じに仕上げるかです。創造スタッフの冬のいつものあれね、と思っている皆様、今年のはちよっと違います！ご期待ください。

### 創造スタッフとは…？

高い芸術性、卓越した専門性に基づく豊富な知識や優れた技能、技術を活かし、文化の家職員やスタッフ、関係者などと連携を図りながら、文化の家の創造的事業の企画や実施、運営に携わります。

## /// INFORMATION ///

皆さんの「やりたい！」を応援します



文化の家には、市民の芸術活動を支援する「市民企画支援事業」という制度があります。市民が希望する公演の企画・運営を、市民自身が実施するために文化の家が支援するもので、平成29年度に策定した「長久手市文化芸術マスタープラン」においても、6つの柱事業の一つとして定義されています。最近では、2005年の愛知万博で見たアーティストをもう一度呼びたいという希望を受け、コンサートを支援しました。実施が決まれば、チラシづくりや集客方法など、企画制作についてサポートし、一緒に進めていきます。将来的には市民が自主事業の二部を担うことも視野に入れており、この制度を使って事業を実施できるのは3回までというルールがあります。それ以降は、得たノウハウを活かして自主的な活動を展開が広がっていくことを願っています。実施には審査や条件などもあるので、この人呼んで公演がしたい！という思いのある方は、ぜひお問い合わせください。

## /// GUIDANCE ///



**今** 紹介するのは、平成29年度の改修工事新たに登場したお部屋、小音楽室です。もともとはシャワー室だったところを改装しました。文化の家のアトリビング棟には、ピアノのある部屋が音楽室と舞踊室にしかありませんでした。そのため利用率がとても高く、音楽を専門に練習ができる場所をもっと増やすことが望まれていました。音楽室は約60畳とても広い部屋なので、少人数で練習したい方は、持て余してしまいます。一方、小音楽室の広さは約11畳程度で、4〜5人が練習するのにぴったりです。以前は舞踊室に合ったアップライトピアノが移設され、譜面台も用意されています。

知っていますか？ 文化の家の使い方  
【第8回 小音楽室】



# えんとゆかり

このコーナーでは文化の家ゆかりのアーティストを紹介します!

## 第2回 榎原健祐 Kensuke Sakakibara (グラフィックデザイナー・アートディレクター)

私は現在東京でグラフィックデザイナー及びアートディレクターという仕事をしています。学生だった2000年ごろの1年半、文化の家でチラシのデザインをするアルバイトをしていました。その間、幾つもの公演のチラシをデザインさせていただきました(他の文化施設ではあり得ないことですよね?)。就職活動で東京の著名なデザイナーに自分がデザインした文化の家のチラシを見せたところ、褒めていただいたことが嬉しく、記憶にしっかり残っています。最近では、ICOM Kyoto 2019という博物館の国際会議のロゴデザインや2014年に世界遺産登録された富岡製糸場の国宝「西置簀所」の2020年に完成する保存整備工事で、展

示設計におけるアートディレクションの仕事に携わっています。図らずも、今でも文化に関わりの深い仕事に多く携わっています。「文化の家」は私のデザイナー人生にとっての原点です。「文化の家」での出会い、経験を誇りに、これからの人生にも励みたいと思います。



榎原さんのお仕事  
左:コンペにより採用された国際会議のロゴ  
右:インテリアオンラインショップのロゴ



長久手市文化の家 情報誌  
**ハレとケ**  
ハレは非日常、ケは日常を意味し、アートリビングでの稽古の成果をホールで発表する、ケからハレへという文化の家のコンセプトを盛り込んだ情報誌にしたいという願いから名付けられています。  
第9号 2019年10月  
発行:長久手市文化の家  
印刷:株式会社スタンパール社  
デザイン:大瀧琴美  
編集:小島祐未子(家鴨の編集舎) / 岡田百合香(長久手市文化の家)

編集後記  
今回の特集は、ままごとです。実はあのインタビュー、テレビ電話を使用した遠隔で行われました。前号から、このページに新コーナー「えんとゆかり」が始まりました。これまでの「名物!ながくて人」では「市内在住」のアーティストを紹介していましたが、今後は文化の家にゆかりのある、各地で活躍している方を紹介していきます。ままごと主宰の柴さんは、まさに紹介しなかった方のひとり!今年は柴さんが文化の家と関わるきっかけとなった劇王もありますし、素敵な演劇シーズンが待っている予感。中編2本立てのままごとと、短編演劇祭の劇王、気軽に遊びに来てください!  
(「ハレとケ」担当・岡田百合香)

# クーテシガーナの教えて、初山さん!



長久手市のマスコットキャラクター、クーテシガーナが文化の家のアレコレをスタッフに質問するコーナー。今回は、舞台照明についてのギモンを初山さんに質問してみました。



初山 勝人  
文化の家事務局長  
舞台照明家



舞台の照明さんは、何をやる人なの?

舞台で行われる音楽、演劇、発表会などの催し物を視覚的にストレスなく見せるため、舞台に明暗をつけたり、場面に合わせて、照明操作卓(フエーダと呼ばれる照明スイッチが並んでいる機器)を操作したりする人のことだよ。

舞台の照明プランってなに?

誰に、どこを、何のために明かりで照らすのか考えて場面の情景が観客に分かるように設計図をつくることだよ。家の設計と同じように、技術者が図面を見て、時間内で照明を組み立てて本番に臨むので、想像力を膨らませて綿密に照明プランを練ることが必要なんだ。

家庭用の照明とは、なにが違うの??

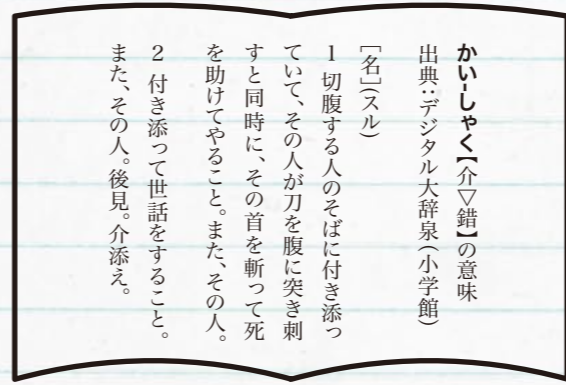
家庭用の照明は、ひとつの照明器具で部屋全体が明るくなるよね。舞台は広く大きいので、数十台の照明器具が必要で、家庭用照明に比べて1台の器具が電気を流す量は10倍以上あるんだ。また、照明スイッチも家庭用とは比べようのないくらい多く、行事によっては1000本程のスイッチを一人で操作することもあるんだよ。

## 日常に生きる舞台用語——カイシヤク?

岡田百合香 (文化の家事業係)

文化の家は市の直営会館のため、ほとんどの職員がそうなのですが、私は「ど」が付くほどの素人の状態で舞台に関わるお仕事に配属されました。今回は、始めた当時に知った「なるほど、これは日常生活にも活かせるう!」と思った舞台用語のお話です。

みなさんは、「カイシヤク」と聞いてどんな字が思い浮かびますか?  
ここで取り扱うのは、「解釈」ではなく、「介錯」です。  
一般的に「介錯」というと、次のような検索結果が出てきます。



切腹だなんて、イマドキ縁がないですよね。舞台用語として使われる介錯は、2の意味に近いです。舞台では、マイクのケーブルを伸ばすときに絡まないように手助けをすること、袖幕などがセットなどに引っかからないようにすることなど、何かのサポートをすることを広く「介錯する」と言います。  
舞台には、重たいライトが吊り下がっていたり、セットによっては大きな段差があったり、常に危険がいっぱいです。そんな舞台で働く人たちは、大切な晴れ舞台でステージに立つ人が、安全に、そしてスムーズに動けるようにサポートしています。  
一度でも舞台の仕事に触れ、介錯という概念を知ると、周りを見て動くことを考えるきっかけになるのではないのでしょうか。たとえば日常生活で、自分の後ろを通る人のために、椅子を引いて場所を空けてあげることなんか、介錯、といったように。  
小さな介錯の積み重ねで、自分とその周りが助け合えるような環境が広がっていくと良いなと思います。

## 今後の主な公演のご案内 Pick Up

<p>声優とミュージシャンがライブでお届け <b>ハロウィンおはなしシアター!</b></p>	<p>表現力豊かな絵本の読み聞かせや、スクリーン人形劇にハロウィン音楽会、会場の子どもたちが飛び入り参加できるコーナーも! 将来声優を目指す学生さんや、大人だけの参加も大歓迎。いつもの絵本、いつもの人形劇が、魔法にかかったようにスペシャルに変身します。</p>	<p>■10/27(日) 15:00開演 森のホール 料金: (前売)【フレンズ会員】1,800円 【一般】2,000円 【子ども】500円(3歳~中学生) 〔当日〕【一般】2,500円 【子ども】500円(3歳~中学生) ※2歳以下ひざ上鑑賞無料(席が必要な場合は有料) ※全席指定 ★発売中</p>
<p><b>「虹のかけら ～もうひとりのジュディ」</b></p>	<p>女優、声優と幅広いジャンルで活躍する実力派、戸田恵子と戸田の魅力をよく知る劇作家・演出家、三谷幸喜による最強タッグで、知られざるジュディ・シルバーマンの物語をお届けします。</p>	<p>■11/24(日) 14:00開演 森のホール 料金: (前売・当日)1階席【フレンズ会員】4,000円(前売のみ) 【一般】5,000円 2階席【フレンズ会員・一般】3,000円 1・2階席【学生】2,000円 ※全席指定 ※未就学児入場不可 ★発売中</p>
<p>長久手演劇王国Vol.19 日本劇作家協会東海支部プロデュース Jr.ライト級チャンピオンタイトルマッチ 劇王2020 ～人生を変える20分～</p>	<p>長久手で生まれ、いまや全国各地で開催されている劇王。アジア大会を終えて、新しく生まれ変わります。上演時間20分、役者3人以内、数分で舞台転換可能という制約のもとで上演される短編演劇連続上演イベント。20分であなたの人生が変わるかもしれません。</p>	<p>■2020/2/8(土)【Aプログラム】14:00～、【Bプログラム】18:30～ 2/9(日)【決勝戦】15:00～ 風のホール 料 金: 1公演券(前売・当日):【一般】2,000円 【学生】1,000円 2公演セレクト券(前売のみ):【一般】3,000円 【学生】1,500円 全公演通し券(前売のみ):【一般】4,000円 【学生】2,000円 &lt;ままごと&amp;劇王セット券&gt;(前売のみ、限定50枚) 【フレンズ会員】4,000円【一般】5,000円 【学生】2,500円 ※全席自由 ※未就学児入場不可 発売日:【フレンズ会員】11/2(土) 【一般】11/9(土)</p>
<p>ニューセンチュリーコーラスNagakute 第22回定期演奏会 ～心躍る合唱の世界～ 作曲家の生き方に迫るVol.2</p>	<p>昨年引き続き作曲家・横山潤子氏をゲストに迎え、同氏の作品を本邦初演します。</p>	<p>■2020/2/15(土) 14:00開演 森のホール 料金: (前売)【フレンズ会員】800円 【一般】1,000円 〔当日〕【フレンズ会員・一般】1,200円 ※全席自由 ※未就学児入場不可 発売日:【フレンズ会員】12/7(土) 【一般】12/14(土)</p>
<p>前進座 創作歌舞伎 「牛若丸」 併演「歌舞伎の楽しさ」</p>	<p>日本を代表する伝統芸能「歌舞伎」を子どもと一緒に楽しめる企画です。前半に歌舞伎の解説と実演があり、子どもからお年寄りまで、歌舞伎が初めての方にも十分楽しんでいただけます。</p>	<p>■2020/2/29(土) 16:00開演 森のホール 料金: (前売・当日)【フレンズ会員】3,000円(前売のみ) 【一般】3,500円 【子ども】1,300円(4歳~高校生) 【親子券】4,500円(文化の家のみ) ※全席指定 ※4歳未満入場不可 発売日:【フレンズ会員】12/7(土) 【一般】12/14(土)</p>
<p>ワートルロー音楽祭(仮)</p>	<p>長久手市と友好都市協定を結ぶワートルロー市で、モーツァルト音楽祭を主催するカルテットを招いてコンサートを行います。国際交流フェスタも同時開催予定!</p>	<p>■2020/3/8(日) 時間未定 森のホール 料金:未定 ※未就学児入場不可 発売日:【フレンズ会員】2020/1/11(土) 【一般】2020/1/18(土)</p>
<p>座★NAGAKUTE 定期公演 「アトムへの伝言」</p>	<p>扉座の作・演出家の横内謙介自ら「シリーズ最高傑作」という、「人間とロボット」というテーマを師弟愛の側面から描く感動あり笑いありの自信作。この作品に独自のアレンジを加えて演じます。</p>	<p>■2020/3/21(土) 14:00、16:00開演 3/22(日) 14:00開演 風のホール 料金: (前売)【一般】1,200円 【高校生以下】800円 〔当日〕【一般】1,500円 【高校生以下】1,000円 ※全席自由 ※未就学児入場不可 発売日:【フレンズ会員】2019/12/7(土) 【一般】2019/12/14(土)</p>

### 長久手市文化の家






〒480-1166 愛知県長久手市野田農 201番地

お問合せ tel.0561-61-3411

<HP>[http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct\\_bunka\\_ie.html](http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html)

<スタッフ日誌><http://bunkanoie.blog.fc2.com/>  長久手市文化の家  @bunkanoie

#### 交通アクセス

-  地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
-  地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
-  地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス愛知医科大学病院行きの一部(4番乗り場)または、菱野団地行きの一部(5番乗り場)、長久手文化の家北下車、徒歩4分
-  名鉄バスセンターから名鉄バス、トヨタ博物館前行き、長久手文化の家北下車、徒歩4分
-  東名高速道路名古屋インターから車で10分、名古屋瀬戸道路長久手インターから車で10分



※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。